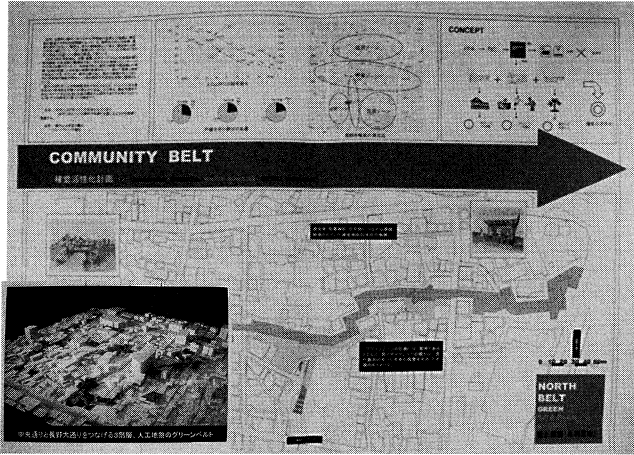




# 学生卒業設計コンクール2002

去る5月15日、長野市内のホテルにて「学生卒業設計コンクール2002」表彰式を執り行いました。  
入賞者には賞状と記念品が贈られました。

## 大学の部・金賞

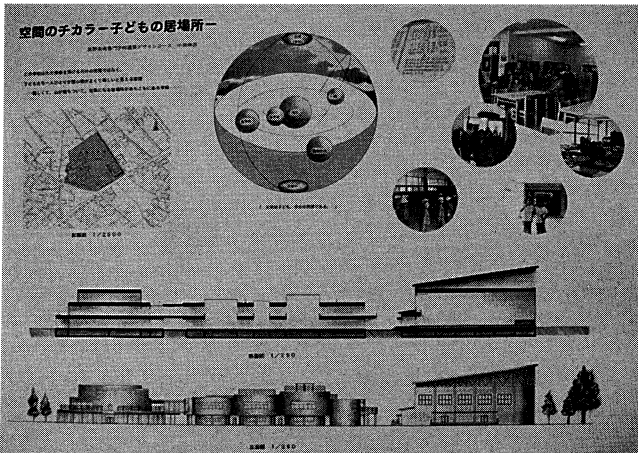


信州大学工学部/柴田誠広・砂田佳代・濱田修至  
Community belt ～権堂活性化計画～

## ●入賞作品／大学の部

賞	氏名	学校名	作品名
金	柴田誠広	信州大学工学部 (社会開発工学科)	Community belt ～権堂活性化計画～
	砂田佳代		
	濱田修至		
銀	長 善規	信州大学工学部 (社会開発工学科)	NARAI-ZONE ～活きつづける街づくり～
銅	梅干野成央	信州大学工学部 (社会開発工学科)	参道再興
	道木 健		

## 専門学校部の部・金賞

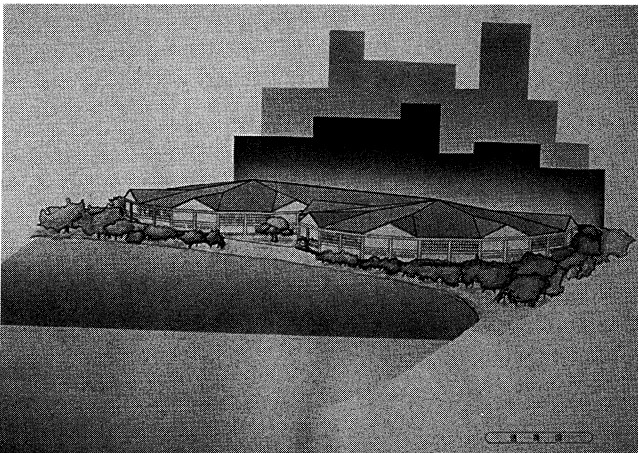


長野美術専門学校/小林伸吾  
空間のカ-子どもの居場所

## ●入賞作品／専門学校部の部

賞	氏名	学校名	作品名
金	小林伸吾	長野美術専門学校 (造形科建築デザインコース)	空間のカ-子どもの居場所
銀	池田伸夫	国際コンピュータ ビジネス専門学校 (建築CAD学科)	Ice village
	伊藤千草		
銅	堀内秀隼	国際コンピュータ ビジネス専門学校 (建築CAD学科)	新松代駅の提案
	杉村邦彦		
	澤田龍太郎		

## 高校の部・金賞



飯田長姫高等学校/大平賢秀  
都心型スポーツ施設

## ●入賞作品／高等学校の部

賞	氏名	学校名	作品名
金	大平賢秀	飯田長姫高等学校 (建築科)	都心型スポーツ施設
銀	原 聖太	飯田長姫高等学校 (建築科)	保育園
	松本和久	池田工業高等学校 (建築科)	バリアフリー住宅～人と人のつながり～
銅	長谷川幸大	上田千曲高等学校 (建築科)	2世帯住宅設計図
	富井隆一	中野実業高等学校 (土木科) 建築コース	夢ある二世帯住宅
	大橋理絵	長野工業高等学校 (建築科)	映画博物館設計図

## コンクール審査委員会

・委員長 藤森照信 (東京大学教授) ・委員 柳澤孝彦 (建築家)、柳沢京子 (グラフィックデザイナー)、宮本忠長 (建築家)、松下重雄 (JIA長野県クラブ会長)

# 学生卒業設計コンクール2002 審査講評

本年のコンクールは、信州大学、上田情報ビジネス専門学校、国際コンピュータビジネス専門学校、長野美術専門学校、飯田長姫高等学校、池田工業高等学校、上田千曲高等学校、中野実業高等学校、長野工業高等学校の都合9校の参加を得て行われた。新潟県や近県の学校からの参加も話題に挙がっており、実現するかどうかは未定としても、この事業が注目を集めていることを歓迎したい。

さて、今回の出来栄えについて述べると、ここ数年の傾向が続いていると言ってもいいと思う。それは大学部門の足踏み状態と、専門学校、高等学校部門の充実である。

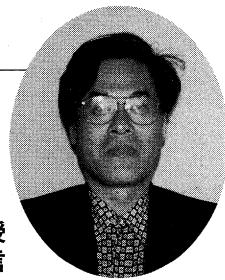
大学部門の足踏みについては、様々な理由が考えられるが、ひとつに、母体となる学生の少なさであろう。デザインをする学生を大学院まで集めても、東京の私立大学の一研究室配属分にも及ばないであろう。人数の少なさは、いきおい刺激の少なさにつながってゆく、ここが問題なのである。刺激の増大ということを考えると、近県との交流というのは一つの突破口になる可能性があって、卒業設計展の共同開催をはじめ、授業の相互乗り入れが可能になれば素晴らしい。東京の大学では、すでにそういう事が広く成されているが、遠距離の壁を突破する術はないものだろうか。

さて、大学の部から講評すると、金賞は柴田、砂田、増田の3校に



▲学生卒業設計コンクールの表彰式

よる権堂の活性化計画で、アンケートを採ったり、都市のすき間的空間に着目したり、そしてなにより夜の顔として知られる権堂の昼の顔を考え、テーマとして老人とスポーツを導き出したというのが評価された。銀賞の長君は、現地調査の充実が評価さ



東京大学教授  
藤森照信

れ、銅賞の梅干野、道木君は善光寺の門前通りへの注目はいいものの、もっと通りの歴史性に価値を置く必要がある。

専門学校の部については、全体としてここ数年の充実ぶりは衰えておらず、この勢いを続けて欲しい。

金賞の小林君の案は、審査員全員が高く評価し、他を圧していた。難しい平面計画も破綻なくまとめていたし、図面も充実し、力作である。銀賞の池田、伊藤案は、公衆便所だけをテーマとする前例のないもので、外観は円錐型に納め、構造をむき出しに見せる。一步間違えば、子どもっぽくなってしまふやり方なのだが、構造原理もちゃんと踏まえ、図化能力も高く、高いレベルに着地している。銅賞の堀内、杉村、澤田の案は、松代の新駅をテーマとしたもので、テーマはありふれているが、平面計画はよくできており、また多くの審査員を驚かせたのはエレベーションのセンスの良さと、プロポーションも窓のあけ方も、とても学生に思えなかった。

高校の部は、金賞が大平君で、平面計画におかしな点は少なく、パースはよかった。銀賞は原君、松本君の二案。原君は、保育園をテーマとし、平面計画の機能が評価され、松本君のバリアフリー住宅も、機能面でちゃんとしていた。銅賞は、長谷川案、富井案、大橋案の三つ、長谷川君の二世帯住宅はまとまりがよく、富井君の二世帯住宅は、居間、台所、食堂をあげたことが、果たしていいかどうか、大橋君の映画博物館は、テーマは素晴らしいものの、肝心の上映室専用ではなくて、多目的室となっており惜しまれた。

## 通常総会記念講演会に参加して

2002年度JIA長野県クラブの通常総会が5月15日にメルパルク長野で開催され、恒例の記念講演会が高知の建築家・山本長水先生をお迎えして『循環型社会に合う「土佐派の家」の手法』との演題で行われた。

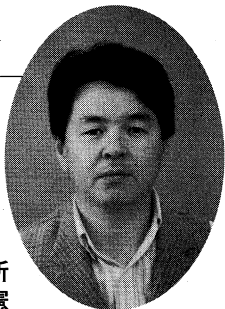
1986年頃から高知県産の杉材や土佐漆喰、土佐和紙などを主な素材とし、現代に則し、地域に根ざした住宅を設計している建築家たちのことを「土佐派」と呼び、彼らの手による作品を「土佐派の家」という。

近代化以前の百年前の土着の民家の手法を普遍的なものと捉え、なおかつ現代の感性に合ったものに整理し直して呈示するというコンセプトで、地域の風土をもとに考え、職人の手仕事を大切に、造林木の間伐材を使用して百年もつ家を作るという手法は、高知に限らず全国どこでも実施可能なもので、その普遍性が高く評価される由縁であろう。

先生は地元の杉を構造材として使用するという独立当初からの設計活動の変遷を三段階に分けて説明された。

1. 第一段階として30年生の杉を丸太のまま使用する。幼年木で狂いやすいという弱点。(かたつむり山荘)
2. 正角材を使った重ね梁。-合理的だが貧弱。上下は強い材が必要。(倉橋由美子の家、中芸高校格技場)
3. 2~300φの丸太をそのままあるいは角材として使用。2の弱点を補強。(相愛本社、十市団地)

間伐材でもある程度年数が経っていないと問題があるということ、現在では60年生以上の木を使っているというお話だが、学会の作品賞を受賞した中芸高校格技場の後も創意工夫を重ねている姿勢に感銘を受けた。テレビで放映されたビデオを交えての講演で、その語り口は作品と同じように終始穏やかなものであった。



(株)アーバー建築事務所  
山口康憲

40年同じ事を続けていたらたまたま時代が合ってきたと謙虚に語っておられたが、講演の前に予習のつもりで目を通した手持ちの資料の中にバブルの頃に先生が書かれたものがあったが、その内容は現在とかなり変わるところがなく、そこに時流に



▲山本長水氏の記念公演

流されずに自分の信じた道を貫き通すという強固な意志に裏打ちされたメッセージを感じることができた。

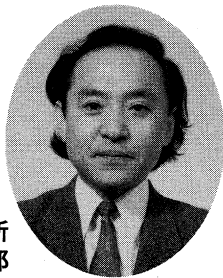
山本先生あるいは「土佐派の家」の手法は、同じ地方で活動する設計者として生き残る道への道標であり、そのメッセージによって大いに励まされ、希望をいただいた素晴らしい講演会であった。

### 山本長水氏プロフィール

1936年高知県南国市生まれ。日大工学部(現・理工学部)建築学科卒業。山本長水建築設計事務所主宰。高知工科大学客員教授・高知女子大学非常勤講師。代表作に「かたつむり山荘」「高知県立美術館」等がある。



## 建築家 宮本忠長先生との 魂のふれあい



(株) 倉橋英太郎建築設計事務所  
倉橋英太郎

宮本先生のご講演を拝聴するのは久しぶりであった。宮本節は説得力があり、いつお聞きしても、その言葉の裏に建築家マインドが充満していて気持ちが良い。

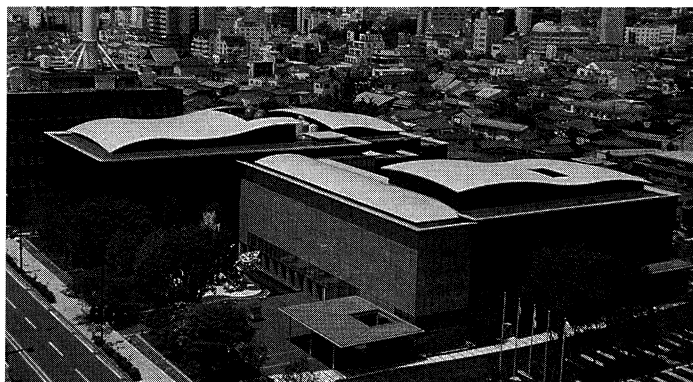
振り返れば、私も今52歳、今から27年前軽井沢で「長野県環境大学」が宮本先生主催であり、その時のご講演が、私がお聞きした宮本節の最初であったような気がする。今回拝聴しながら何処か妙に27年前の宮本節が交差し、私にとっても大変幸福な一時であった。

先生は「人生いくばくか、この美術館は私の集大成として頑張った！」と又、300人ぐらいの聴講者の中、ほとんどが学生であった為か、学生は「人生をいかに生きるか考える。」老人は生と死に直面し「いかに死ぬか考える」その中で設計作業として、今回は「人間の魂のふれあい」であり非常に建築家泣かせで、集中してやらないといけなかったと…

27年前軽井沢では、建築家 吉阪隆生、村松貞次郎先生、建築評論家 川添 登先生他錚々たるメンバーの中で、卵の話をした事がお話を聞きながら思い出された。それは、ものの見方を一方向ではなく、二方向で見る事。卵は円の方向だと中心は一つだが、楕円の方向は中心が二つある。よって建築計画・デザインをする時は一つにこだわらず色々の方面から、角度を変えて考えるべきであると。即ち、創造的な分野で両方の見方をしなければいけないとの事であった。

そんな理念からか、この美術館コンペにあたり2方向ばかりでなく150枚ほどのスケッチを、現場を何度も歩き、描いたとの事であった。話を戻し、宮本先生の設計意図は以下の如くであった。

今回の美術館は、都市の中心に位置していて、旧松本警察のイメージがよくないので、又、「県の森」と関連して森の中に建物を造りたかったこと。但し、450ℓ/分の源池の水の利用と松本の象徴である松本城(別名:からす城)のイメージから漆の黒、チャコール・グレイを採用したこと。屋根は、水対策の為、機械室、電気室は屋上に設置して、屋根は日本の風土から考えて外壁対策と共にフラットで庇を出し、常念の稜線と対象に軽く見せる為、風でなびく、ひらひらの形状として、屋根をデザインしたこと。又、今回の極めつけは正面のダブルウォールである。光は通すが中は見えない。(但し)H=1500の目線ラインを非常に大切にされ、その下は透明である。透かしは和風のイメージ…。昼はそんな状態だが、夜は暗灯として障子の光と影が交差する。



▲松本市美術館

松本市街の通りから建物を、森の中に沈めてたたずませたこと。まさに円熟した建築家のなせる技であろうか。

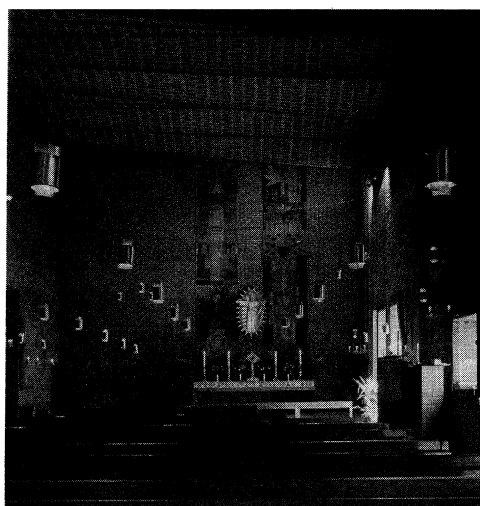
また当初、マスコミから叩かれた外壁の黒(チャコール・グレイ)の3段重ねのアルミスパンドメタルであるが、折り紙をイメージ(重ねは和の構成)上からスパンメタルの溝の中をW=150、W=135と下になる程狭くしているのである。先生のお話を聞き、私は気付かなかった事を恥じた。

透かしガラスとアルミスパンドメタル、そして特注のようへんタイル[なまこ、下見板(地域の遺伝子)のイメージ]の調和は何とも苦労され、中庭の東面の(松が植わっている面)は大変好きとの事であった。私も緊張感漂う面でやはり好きである。又、中庭北側の「蔵のゾーン」であるが、蔵を再生されたかったとの事であるが、同じ大きさの蔵もなく、木造2階建てとして地域の人達の生活に密着したフォルムを造ってやらないとダメとの事。北側の地域の住まいそして道路、蔵、高い美術館の順で蔵ゾーンはやさしい緩衝帯となっている。又、ディテールについては、いたる処に注意を払っている。構造の2本柱、フラットバーで編んだ格子戸、手摺り、外構の池の水ぎわと、笹と那智黒と境界線との取り合い等…。又、椅子は長い間デザインされていなかったが今回は久しく…。と。市民が気軽に中に入り、中庭の芝生でたたずみそれが舞台となり、ホリゾンから透かされる淡い光(すかし)とマッチされ、雨上がりの芝生が非常に綺麗で美しかった。私は久しぶりに安らぎを感じ人生の至福の時を味わった。そして本当に松本市民への素晴らしい贈り物だと実感した。ご講演の後、建築家 宮本忠長先生は表玄関の、草間弥生の「まぼろしの花」の前でしばしばたずんでおられた。その後姿は大仕事を終えられた安堵感と魂をつぎ込んだ建物との別れの寂しさ、そして次なる作品へのエネルギーの充満のひとつときと感じられた。

ご健康に留意され、さらなるご発展と、今後益々素晴らしい作品を創造されんことを、ご祈念申し上げるしだいである。ありがとうございました。

## 自由投稿 -心に触れた建築-

### シーグルド・レヴェレンツの「セント・マークス教会」-1962



レヴェレンツのマークス教会へ行ったのは、もう8年も前になる。

昨年の「a+u」10月号で再び出会った。

ストックホルムの岩をくりぬいた地下駅から、電車で20分程だったと思う。

降りた駅の名は忘れてしまった。

郊外の小さな駅から、5~6分歩いたら、白樺の木立の間から、レンガの外壁が見えてきた。あまりのたたずまいの良さに、思わず走り出してしまった。

沈着冷静?を自認する自分にとって以外だった。

外部を執拗に見て廻り、教会内部に足を踏み入れた。

圧巻であった。

決して大仰なボリュームではないけれど、

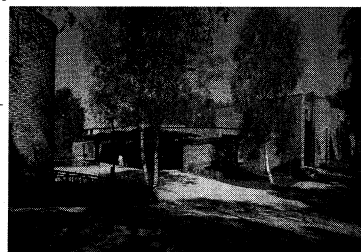
心の琴線に触れた。

天井にもレンガが張ってあり、何と暖かい空間だろう。

シスターにふるまわれたコーヒーと小さなパンが、

空きっ腹にジワーッときた。

(株) 西沢建築研究所  
西沢利一



## ひとり言

会員の皆様からの「声」を掲載するコーナーです。

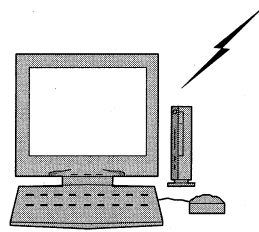
最近、メールで住宅コンペへの参加者募集の案内が届くことが多い。主旨や方法は様々で、まさにネット上には、家づくりについての情報が氾濫している状態だと思う。

そんなサイトを覗いていると、一般の方にとってどんな家づくりがベストかを判断することができるのかどうか、また設計そのものを認識してもらえるのかどうか不安にもなる。

6月に松本市であるコンペが公開された。建築予算2,500万円、別途設計監理料10%という規模。地元でもあったため興味があり建設地までは確認したが、結局応募はしなかった。その理由には忙しさもあったが、次のような構図に疑問をもったからでもある。

サイト運営者はビジネスとして主導権を握り、施主は多少の費用負担で多くの案を手に入れ選択権を持つ。建築家は仕事が欲しいから、無償でノウハウ提供をし吉報を待つ。建築家の立場はこれでいいのかどうか悩むところである。結果は15名の応募があり、7月末の段階で4名(東京・千葉・大阪)に絞られていることまで公開されている。

今年からJIA長野県クラブのホームページ(HP)の運営を広報委員会が担当することになった。私も一委員としてHPのあり方について考えていきたい。今のHPは主に会員への内向けの発信をしているが、今後は徐々に一般の方への外向けの発信も必要ではないかと思う。詳細の議論になると難しい面も多いが、将来に向け、HPのコンセプトだけは早く固めて、少しずつ準備をしたらどうかと思う。



林建築設計室  
林 隆



とりあえず、会員及び賛助会員のインターネット利用状況のアンケート調査をしたらどうか。

その結果にもよるが、行事の案内や業務連絡をそろそろメールにシフトしていてもいいのではないかとも思う。また会員・賛助会員専用の掲示板、会員によるメーリングリストなどはどうかという意見も聞く。

HPの方向性・内容・管理方法など課題は多いが、テレビや雑誌に次ぐメディアとして捉え、建築家の仕事・建築家の存在をどんどんアピールしていくことも急がれると思う。ハウスメーカーによる家づくりが普通で、建築家による家づくりは特殊ということではなく、少なくとも同等に捉えてもらえるようにするために、ネットによって何ができるかを考えていきたい。長野県だけでも早く“建築家による家づくり”という選択肢もあるという風潮が強まることを期待したい。

## エコー

賛助会員の皆様からの提案などを掲載するコーナーです。

### JIAに女性の風を

長野ピーエス(株) 斎藤富士子

女性の社会進出が進んだと言われていますが、建築業界ではどうなのでしょう？

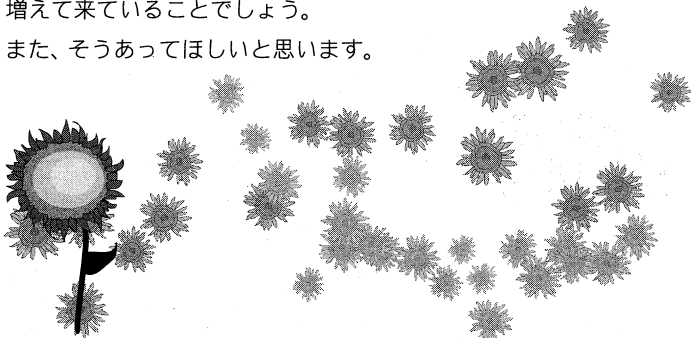
確かに日頃接しさせていただいている設計士やハウスメーカーの担当の方にも女性がたくさんいらっしゃいます。

女性ならではの感性・気配り・センスが建築に活かされることもあるでしょう。もちろん、設計においては男女の区別は関係無いのかもしれませんが、最近は女性の建築士も増えていると聞きます。それでも、JIAに女性会員は少ないようですね。

ピーエスの室内気候に興味を持って下さる方にも女性が多くいらっしゃいますが、皆さんデザインだけでなく、環境・空気の室といったソフトにも厳しい目を向けられて、こちらへの要求も厳しくなっています。設計・材料・構造・環境・歴史あらゆる面で、男性しかできないということは無くなっていくのでは・・・。

地球には男女が暮らしています。JIAにも女性の参加が期待され、増えて来ていることでしょう。

また、そうあってほしいと思います。



### 今この瞬間を!!

(株)角藤 長野支店 渡辺一成

私たちの心のかなりの部分は、今この瞬間をどのように、どのくらい生きているかにかかっている。昨日や昨年起きたこと、明日起きることに関係なく、今生きているこの瞬間なのである。

私たちの大部分は、様々な事を心配しながら又考えながら生きるという術を身につけている。

今この瞬間より過去の問題や将来の不安を優先したあげくに、不安や失望、欲求不満にとらわれてしまう時もある。

その反動として「いつかきっと」今よりももっと良くなると信じて感謝や幸せを先送りしてしまう。

私たちが他の計画に没頭している間に、子供たちは勝手に育ち、友人たちは引っ越したり、他界したり去っていき、私たちの体型は崩れ、夢は指の間から滑り落ちていく。

人生を来るべき本番の舞台稽古であるように生きている人も多い。しかし、そうではないのだ。

実際あなたが、私が、彼女が、明日ここにいるという保証はないのである。私たちは今しかない。

コントロール出来るのは今しかない。

今この瞬間に焦点を当てれば、不安を押し除けることができる。不安は将来起こるかもしれない事に悩むことで生まれる。仕事が無くなったらどうしよう、世の中がどう変わっていくのか、不安の種は尽きない。不安をなだめる最善の方法は、今この時を考える。今この瞬間を意識し、その努力が生き方を左右する。

「今JIA長野県クラブが熱い」

## クラブインサイド

### 2002年度通常総会を終えて……甘利亨一

2002年度の通常総会は、2002年5月15日「メルパルク長野」にて開催。第1号議案から第5号議案まで、全会一致で承認された。

#### ①総務委員会の充実

今までの正副会長、委員長、賛助会長を総務委員会に統合拡充し、より合理的な政策会議の場を設けCPDの企画・管理の一元化をはじめすべての起案を行い幹事に諮りたい。

#### ②委員長の副会長兼任をやめる

委員長の自主性を発揮し、主体的な動きが活発になるために、副会長は担当制とし、主として各事業の運営を全会員・賛助会員に委ねる。会員自らCPDの運営に積極的に取り組みCPDを自分のものとする。

#### ③保存問題特別委員会を設ける

「愛と情熱の家づくりVOL.2」発刊の大役を終えたので、情報特別委員会は廃止し、今年度持ち回り開催の決まった「支部保存問題拡大委員会」の準備実行のため保存問題特別委員会を設ける。

④その他として、2年間の取り組みのあった「地域材に関する懇談会等への参加協力」を交流委員会担当とし、「歴史的建造物等の調査、研究」をまちづくり委員会に加える。

特にJIA建築家資格制度確立に向けた急激な動き、とりわけCPD(継続職能研修制度)の本格的実施年度を迎え、当地域会のクラブ規定、規則の改定を行い明確な地域会の性格づけと事業展開を図ることとなった。各委員会では、今後CPDの企画運営に関して活発な議論を行うこととなる。また、本会理事出澤氏よりJIA本部は、若い人たちに入会していただくため、今年にかぎり、6,000円の入会金を予定しているという報告があった。各委員会の事業内容が示され「より地域に密着した、学び合い学び続ける団体」を積極的な事業展開により広くアピールしていきたいと思えます。

### 第3回幹事会報告……片倉隆幸

6月24日、ホテル飯田屋にて開催。

2002年度事業計画のもと委員会構成と役割分担の確認をする。事務局体制の整備、会員増強の取り組み、信州大学のインターシップ受け入れについても活発な議論がされた。JIAとしても重要な時期に関副会長の辞任があり、一層の団結を確認し合う。

### 「本音で語る会」を終えて…会員委員長 甘利亨一

去る7月23日、松本第1会館にて技術交流会に引き続き「本音で語る会」が開催された。参加者は総勢43名で7テーブルに分かれ、「JIA会員はどこへ向かうのか」のテーマの基に1時間30分に亘り白熱した討論が展開された。CPD制度がいよいよスタート、1年36単位取得が義務づけられる訳だが、長野県クラブ単独で本年は26.5単位のCPDプログラムを組み動き出している。そんな中で我々は切磋琢磨し自らの向上を図って行かなければならない訳だが、CPD本来の目的から離れCPDの単位を取るのが目的に変わり、大きな勘違いに発展してしまわない様、CPDの内容も充実した、参加したくなる中身の必要があるとの討論が我々のテーブルでは印象に残った。

## クラブアウトサイド

### 第1回支部教育委員会……市川英一

4月24日開催。本年度の事業計画について審議。昨年に引き続き「建築家のメモ展」「カルチャーセンター共同事業」(見学会)を行う。「大学院修士設計展」を立ち上げる。

### 第2・3回保存問題委員会……依田政司

5月10日、6月13日開催。「保存要望書提出に関するJIA指針」が、ほぼ委員会の意向に沿ったかたちで認められました。ワーキンググループについても、設置要項が委員会内部で合意され、支部役員会の承認待ちの状況であります。本部、支部共に委員会の体制と活動が認知されると、委員会活動の重要性が増すものと思われれます。

### 2002年度支部通常総会……松下重雄

5月22日、JIA館にて開催。2001年度事業報告、決算報告に続き、2002年度活動方針案、予算案が全て可決された。松原忠策新友部長の活動方針は、建築家資格制度の確立を目指し、CPD実施、環境保全への積極性と設計者選定の改善、地域支援会を柱に掲げた。

### 第1・2・3回支部図面ライブラリー実行委員会……山口康憲

第1回は5月29日、第2回は7月5日開催。今年度のテーマは「地面と図面」に決定。活動方針も合わせて検討。7月に図面と見学会「横浜・新田建築散策」を行う。懸案のJIA収蔵ライブラリーの取り扱いも検討する。第3回は7月13日に、「図面と見学会-近代から未来へ-“横浜開港の道を歩きませんか”」を開催した。

### 2002年度本部総会……松下重雄

5月31日、JIA館にて開催。2001年度事業報告・決算報告、2002年度事業計画・予算案の他、CPD規則、UIA誘致、入金金額(会員増強の為に1年に限り、3万6千円を6千円に)、などが審議承認され、大平根弘司新会長の「JIAを変えよう」がスタートした。

### 第1回地域サミット……松下重雄

6月11日、横浜市にて開催。神奈川県地域会のガリバー展見学の後、各地域会代表と支部役員の自己紹介に続き、支部活動方針の説明、各地域会の状況報告が行われた。長野地域会の規約改定、組織構成の見直しについて報告した。各地域から財政難、会員減少等の悩みが報告された。

### 2002年アーキテツガーデン実行委員会報告書……上村保弘

第1回は6月12日、第2回は7月1日に開催。決定事項として、アーキテツガーデン2002は下記の通り開催する予定となった。  
・開催期間:2002年10月23日(水)~10月29日(火)  
・テーマ:「街の今昔、そして未来」  
・開催会場:メイン会場/TEPCO銀座館(銀座6丁目)  
・基調講演:10月25日(金) 藤森照信 東京大学教授  
その他、参加企画として、住宅部会によるワークショップセミナー、都市デザイン部会によるセミナー、保存問題委員会による見学会・シンポジウム、デザイン部会のセミナー等々検討中。各地域会の参加については、

種々の意見があり、2002年のアーキテツガーデンを行いながら、2003年をどうするのかを分科会を地域会で開催するかを含めて意見交換する。

### 本部会員・会費に関する特別委員会…出澤 潔

第1回は6月13日、第2回は7月4日開催。昨年度の基本政策会議報告により、会員種別と会費種別について、11月末を目途に検討して理事会に報告するための委員会。基本的には会員は一律の会費とすべきとの「報告」を受け、現行の収入と支出・会員数の動向など各種資料により議論。

### 第36回本部総務委員会……出澤 潔

6月28日開催。新しい執行部の運営方針に従う委員会構成の見直しの報告。5月末現在の会費収納状況の報告及び対策。会員増強運動の具体的な展開等について議論。

### パネルディスカッション

#### 横須賀型資質評価方式による設計者選定

### ……松下重雄

7月10日、建築家会館ホールにて開催。国土交通省の大田企画専門官、横須賀市の高田建築課長、審査員の芦原太郎氏、入選者の山本理顕氏をパネラーに、松原支部長の司会でかなり突っ込んだ討議がされた。長野県住宅部からも出席があった。今後、長野でも開催したい。

### 第125回本部理事会……出澤 潔

7月11日開催。報告事項14、審議事項6、会報54号で報告して以来、3回の理事会が開催された。大宇根会長を中心とした新体制の理事会は活気に満ちた議論百出。UIA大会誘致にあたって多くの資金を要する事について、誘致する意義を会員に明確に伝えることが必要であるとの強い意見が出された。その他、詳細はJIA NEWS 参照。

### 第1回事業委員会……竹花彰男

7月11日開催。CPD研修会の運営について、事業委員会としてのアイディアを話し合う。あすなる建築展と文化講演会の企画・運営については、あすなる建築展の最後に文化講演会を企画し、全員で話し合いの場を設けてはどうか。学生卒業設計コンクール、群馬・新潟地域会については、十分な検討をした。アーキテツガーデンへの参加協力については、あすなる建築展をもって参加しているが、委員会としての参加も考えたい。

### 第3回支部役員会……松下重雄

7月18日、JIA館にて開催。支部・本部関連の動きが報告され、その中でアーキテツガーデンの地域でのあり方が、一年かけて検討されることになった点が特筆すべき報告であった。4件の承認がされたが、支部委員会構成の中に、長野地域会派遣委員が全て承認された。

## 会員の皆様へお知らせ

### 「保存問題長野大会理論会」開催

日時:2002年8月23日(金)・24日(土)

※お申し込み、詳細お問い合わせは事務局まで。

## JIA長野県クラブの出版物ご案内 あなたの夢を建築家を実現します!!

信州で「家づくり」に情熱を傾ける建築家を一挙紹介!!

「設計を建築家に頼みたいが、敷居が高い・・・」とお考えのあなたに、

建築家一人一人の「仕事」を

写真と文章でご紹介。

家づくりの最良のパートナーに出会える一冊です。

既刊本「愛と情熱の家づくり」定価¥1,429

既刊本「建築家とつくる家」定価¥1,429

お問い合わせ・お求め

JIA長野県クラブ

長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内

TEL:026-232-3897



## 新入会員紹介

賛助会員……フジグリーン工業(株) 松本営業所(松本市)

賛助会員……大央電設工業(株)(茅野市)

### 編集後記……場々洋介

2002年JIAは、CPDをスタートした。県クラブの委員会及び事業内容またメンバーも一新し、我々を取り巻く環境の変化をひしひしと感じる今日この頃です。会員の方々の積極的な投稿を期待しております。

### 新事務局紹介……山本和子さん

2002年度総会以来、ご縁があり事務局を勤めさせていただきます山本和子と申します。事務職は初めての経験で、カルチャーショックの毎日です(笑) お役に立つかどうか不安でいっぱいですが、皆様からのご協力をお願いしつつ、がんばってまいります。どうぞお気軽に事務局へお出かけ下さい。おいしい「お手前」(緑茶)でお待ちいたしております。趣味:ドライブ、温泉めぐり



編集人 西沢利一

発行人 松下重雄

発行所 JIA長野県クラブ

長野市南長野妻科426-1

長野県建築士会館内

TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303

作成 アッカグラフィックス/新建新聞社

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。